

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.180

発行:令和元年10月1日

講習会のご案内

10/5日(土)、10/6日(日)の講座受付は9/15から
10/31日(木)、11/10日(日)の講座受付は10/20から

「庭木の冬囲いを覚えよう」

とき 令和元年10月5日(土)

午後1:30~3:30 定員20名

講師 公園緑地協会職員(緑のセンター)



「ビオラと秋植え球根の寄せ植え」

とき 令和元年10月6日(日) **1,000円**

午後1:30~3:30 定員20名

講師 緑のセンター相談員



「果樹の剪定と栽培管理」~ブドウと小果樹~

とき 令和元年10月31日(木)

午後1:30~3:30 定員50名

講師 上川農業改良普及センター

普及指導員 岸本結香さん



「押し花カレンダーを作ろう」

とき 令和元年11月10日(日) **1,000円**

午後1:00~3:00 定員20名

講師 押し花サークル つくしんぼ

代表 加藤迪子さん



「クリスマスからお正月の寄せ植え」

とき 令和元年12月8日(日) **2,500円**

午後1:00~3:00 定員20名

講師 フラワーマスター 山本裕美さん



連続講座を受講の方々へ

~第3回のお知らせ~

午後1:30~3:30

「菊ガーデン講座」10/12(土)



展示会のご案内



木の実・草の実写真展 10月20日(日)~11月 4日(月)
神楽岡公園の自然写真展 12月 3日(火)~12月27日(金)

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~ 3月は毎週月曜日が休館日です。(")

第35回「旭川市の公園」絵画展

場所: イオンモール旭川西

「ペットボトルの寄せ植え」

無料体験講習会

日時: 10月7日(月)

①9時~12時 ②13時~16時

①と②各先着25名様限定



〈園芸の基礎知識〉 植物の葉っぱの働き

～ 葉っぱの仕事 ～

■光合成とは

植物は、根から吸収した水と空気中の二酸化炭素を材料にして、葉で太陽の光を利用して、酸素を放出し、デンプンをつくっています。この作用を光合成といいます。光合成の材料は、水と、空気中にある二酸化炭素で、これを反応させるエネルギーは太陽の光です。

これらは、コストのかからないきわめて安全な資源です。植物の葉は、地球上のすべての動物にとって、“環境にやさしい”食糧の生産工場なのです。

■デンプンはすべての動物の食糧の源

光合成でつくられるデンプンは、生命を維持し、生命活動を営むためのエネルギーの源となる物質です。私たち人間の主食であるコメやムギ、イモ、トウモロコシなどのおもな成分になっています。私たちはこれらを食べ、消化して、エネルギーを得ています。植物が光合成で作り出すデンプンは、地球上のすべての動物の食糧の源になっています。私たち人類を含めて地球上のすべての動物は、植物が作り出す光合成産物に依存して生きているのです。

(参考資料:ソフトバンククリエイティブ「植物学「超」入門」、「葉っぱのふしぎ」ほか)

図 光合成のしくみ



出典:田中 修/著「葉っぱのふしぎ」
(SBクリエイティブ、2008年)

ちょっと楽しい講座のご紹介

「プランターで育てる四季成り風イチゴ栽培講座」から

令和元年8月17日(土)13時30分から2時間の講座で、参加者は18名でした。

まず講師から当日配布される苗は章姫(あきひめ)という品種で、その育て方について勉強しました。

この品種は四季成り風ですが、四季成りというのは5℃以上、25℃以下であれば春や夏でも花芽を形成します。また、多くのイチゴは一季成りで、初秋の低温(10℃以下)と日長が短くなる(13時間以下)ことで花芽を作ります。講義を受けた後、実際に23cmプラ鉢に植付けしました。イチゴの培養土(赤玉土60%、園芸用培土20%、火山礫20%)の配合を学び、堆肥、苦土石灰、化成肥料を混合して、受講者同士で来年の収穫を楽しみに会話しながら苗を植え付けました。苗は親株側の反対側に果実がつくので、それがわかるように苗を植えます。せいぜい2年で株を更新しますので苗の採り方なども勉強しました。



ところでイチゴの収穫と食べ方ですが、収穫は早い時間帯に行います。大きさよりも真っ赤に熟したものを収穫します。食べ方はヘタを取った部分から食べ、最後に先端を食べるようにします。

イチゴはビタミンCが豊富で、美肌効果や美白効果に優れていて、健康にも不可欠な栄養素です。ビタミンCは熱には弱く、加熱すると壊れやすいので生でビタミンCを摂取できるイチゴは最適ですとの締めくくりで、参加した女性の方々の表情は真剣そのものでした。

植物の病害虫

その 51 「カイガラムシ類」



フクロカイガラムシ類

イチイカタカイガラムシ類

コナカイガラムシ類

1 寄生しやすい植物

草花、ラン類、花木、庭木、果樹など多くの植物

2 被害

葉や茎、枝などに綿上の塊、あるいは口ウ状の塊が多数付着します。虫の出す排泄物が葉や茎の上に付着して茎や葉が黒く汚れたり、枝が先端部から枯れ込んだりします。

3 生態

雌と雄では全く異なった生活をします。雄は成虫→卵→幼虫→蛹→成虫(翅がある)、雌は成虫→卵→成虫→未成熟成虫→成虫(翅と脚が退化して動けない)を年に1～3回繰り返し、年中姿がみられます。冬の間はじっと眠った状態で過ごします。

ふ化した幼虫は、殻の下から這い出して四方にひろがりますが、ひろがる範囲は狭く成虫のいた付近の葉や枝程度です。しかし、小さくて軽いため、風に乗って飛行し遠距離移動することもあります。

汁を吸いだした幼虫はやがて脚が退化して二度と移動することができなくなります。ただし、コナカイガラムシは成虫になっても脚があり自由に歩き回れます。

雄になる幼虫は成長すると白色の口ウ状の粉を被った蛹になるので、虫がついた葉や枝は真っ白になることがあります。その後、脚を持った雄成虫が羽化して、雌成虫を求めて飛び立ちます。

4 防除法

カイガラムシの防除がむずかしいのは、卵や虫体が蛹物質に覆われているため、薬剤を散布しても蛹物質によって遮断され薬液が虫体にかかりにくいことです。成虫やその卵囊から生まれてくる幼虫は発生が始まってから順次発生し、その期間は長いものでは数週間に及ぶものもあり、いろいろな发育ステージの幼虫が混在しているためです。

以上のことから、カイガラムシの防除には、幼虫の発生時期を的確に把握して、虫体に被害物が十分に形成しない幼虫(発生期は5～9月と種類によって異なる)がピークになる時期に浸透性のある殺虫剤で7日おきに数回の防除を行うことが大切です。

「フジ」の花を楽しむ剪定

マメ科 フジ属

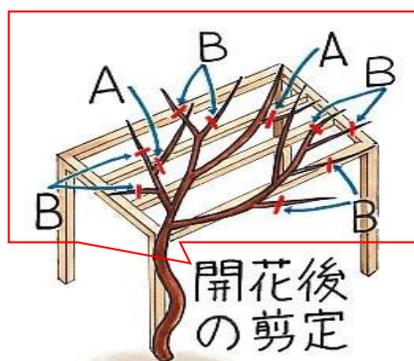
フジは、つる性の落葉高木で5~6月に蝶のような形をした紫色の小花を房状にぶら下げます。主に「ノダフジ系」と「ヤマフジ系」の2つの系統に分けられますが、緑のセンターにあるヤマフジ系は花房が短く、つるが左巻きになるのが特徴です。また、つるを伸び放題にすると葉が茂り、幹に日が当たらなくなってしまうことから花が咲かなくなってしまう。毎年、花を楽しむために初夏と秋の2回、剪定を行きましょう。



.....< 剪定のコツ >.....

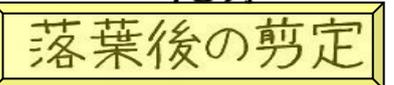
◎1回目の剪定.....(開花後の剪定)

フジは、春から夏に伸びた枝の中で充実した短い枝に翌年の花芽を付けます。花芽の形成は7月下旬から8月なので、開花後の剪定は花後の6月下旬までに行ないます。まず、混みすぎたり、重なった不要なつる(A)を基部から剪定します。そうすることで、株の内側まで日が当たるようになり、花芽が付きやすくなります。次に、春に伸びた枝で伸びすぎたつる(B)を適当な長さに切り詰めます。また、それとは別に日光が十分株の内側まで当たるようにするため混み合った箇所があれば枝を切って整理します。



◎2回目の剪定.....(落葉後の剪定)

フジの花芽は丸みを帯びていて、9月には確認できるようになります。花芽は、その年に伸びた短いつるの基部につくので、10月以降の落葉後に、つるの基部につく3~4個の花芽を残して、つるを切り詰めます。春から秋まで、ひこばえや幹からつるが直接出ることもあるので、見つけしだい切り除きます。



展示室の植物 (86)

オキザリス・トリアングラリス



学名 : Oxalis triangularis カタバミ科 カタバミ属

通称は「紫の舞」。オキザリスは球根性の植物ですが毎年掘り上げる必要はなく、植えっぱなしでも大丈夫です。名前の由来は、葉の形の「三角」=「トライアングル」からのようです。

花も可憐で可愛いのですが、「葉を楽しみたい」という愛好家の方は、半日陰か室内で管理して葉も大きく葉色を綺麗に保っています。根が浅いので、乾燥すぎないように注意してください。